

●TS・HITS接合の施工●

■ TS接合の原理

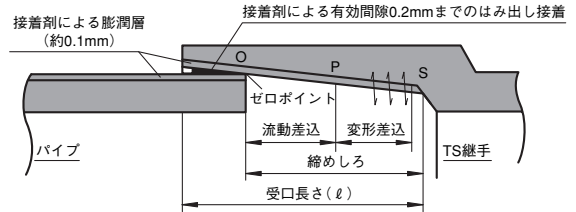
TS接合は継手の受口をテーパにして、接着剤による塩ビ膨潤と塩ビの弾力性を利用したものです。接着剤は管と継手にムラなく均一に塗布する必要があります。接着剤を管と継手に塗れば、その表面に右図に示すように厚さ約0.1mmの膨潤層ができ、この層により管は流動的に差し込まれます。差し込み後、管と継手の各膨潤層がからみ合い接着面を一体化させ、接着剤の乾燥と共に接着強度が高まります。

【ゼロポイントとは・・・】

接着剤を塗布せずにTS受口内に管を挿入し、TS受口内面に差口が当たって止まる位置(管外径と受口内径の寸法が一致する点)のことです。

【ゼロポイントと接着代の関係】

TS継手では、管を必ずしもストッパーまで差し込む必要はありません。ゼロポイントから受口長さの1/3程度挿入すれば十分です。管と継手の組み合わせによっては必要以上に挿入した場合、継手に無理な応力を生じさせることがあります。



■ TS接合の手順 (呼び径13～40の場合)

1 管・継手の清掃

接着接合に使用する管は必ず糸面取りを行なってください。面が取れていないと接合時継手受口の接着剤を削り取ってしまい、抜けの原因となります。

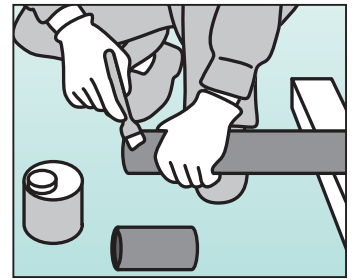
継手受口内面及び管差口外面を乾いたウエスなどできれいに清掃してください。特に土砂、水、油分は十分に拭き取

ってください。



3 接着剤の塗布

接着受口内面、管差口外面の順に薄く塗りムラや塗り洩らしのないよう、円周方向に均一に塗布します。管の標線以上にはみ出して塗らないよう注意してください。



接着剤の標準使用量

単位：g

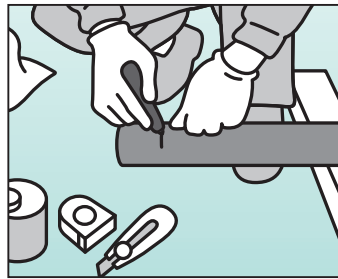
呼び径	13	16	20	25	30	40
使用量	0.8	1.0	1.3	2.0	2.0	2.4

2 標線の記入

サイズ13～40の管差し込み標線は管端より継手受口長さを測り、管体にマジックインキで標線を記入してください。

注) 標線位置は、管端から継手受口長さの位置としま

せん。



TS継手の受口標準長さ

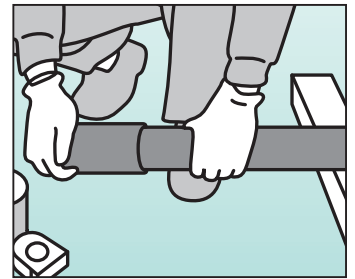
単位：mm

呼び径	13	16	20	25	30	40
継手受口長さ	26	30	35	40	44	55

4 挿入

接着剤を塗り終わったら、直ちに管を継手に一気にひねらず差し込み、下表の時間を目安にそのまま保持してください。

接合後、はみ出した接着剤を直ちに拭き取り、接合部に無理な力を加えないでください。



TS接合の標準保持時間

単位：sec

サイズ	40以下
保持時間	30以上

■ TS 接合の手順 (呼び径50～150の場合)

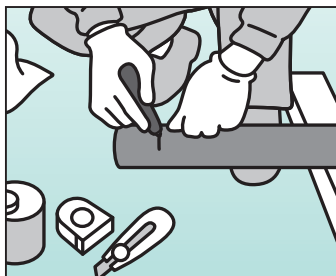
1 管・継手の清掃

接着接合に使用する管は必ず糸面取りを行なってください。面が取れていないと接合時継手受口の接着剤を削り取ってしまい、抜けの原因となります。
継手受口内面及び管差口外面を乾いたウエスなどできれいに清掃してください。特に土砂、水、油分は十分に拭き取ってください。



2 標線の記入

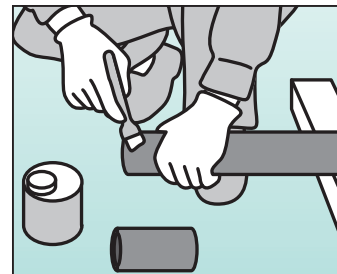
呼び径 50～150 の管差し込み標線は、ゼロポイント長さに下表の接着代長さを加えた位置とし、管体にマジックインキで標線を記入してください。



呼び径	50	65	75	100	125	150
接着代	20	20	25	30	35	45

3 接着剤の塗布

接着受口内面、管差口外面の順に薄く塗りムラや塗り洩らしのないよう、円周方向に均一に塗布します。管の標線以上にはみ出して塗らないよう注意してください。

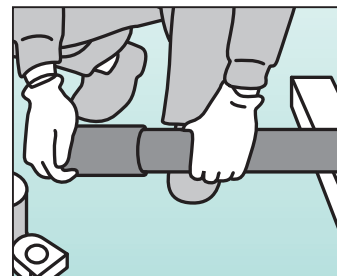


なお、挿入機を用いる場合は、接着剤塗布前に予めセットしておきます。

呼び径	50	65	75	100	125	150
使用量	3.5	6.6	9.0	13.0	20.0	30.0

4 挿入

接着剤を塗り終わったら、直ちに管を継手に一気にひねらず差し込み、下表の時間を目安にそのまま保持してください。



接合後、はみ出した接着剤を直ちに拭き取り、接合部に無理な力を加えないでください。

呼び径	50以下	65以上
保持時間	30以上	60以上

[注意事項]

- ・はさみのようなせん断機（パイプカッター）による切断は行わないでください。管端が白化あるいは変形破損するおそれがあります。
- ・接合に際しては、かけやなどで無理にたたき込んだり、重機のバケット等による挿入をしないでください。
- ・塩ビ管を切断する場合、使用する工具によっては切断面が茶色く焦げることがありますので、ご注意ください。
- ・施工後、通水試験は必ず水圧で行ってください。空気圧では絶対に実施しないでください。通水試験の加圧は、接着接合後 24 時間経過してから行ってください。
- ・万が一管・継手が破損した場合、重大事故（怪我）に繋がる恐れがあります。

詳しくは、塩化ビニル管・継手協会の HP をご参照ください。